

研究課題名	【演題番号 10】 固形食物による消化管アレルギーの診断と予後予測における バイオマーカーの研究
フリガナ	マキタ エイシ
代表者名	牧田 英士
所属機関（機関名） （役職名）	自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科 講師（学内講師）
本助成金による 発表論文，学会発表	2025 年の日本アレルギー学会で発表し、英文誌へ投稿予定である。

## 研究結果要約

Food protein induced enterocolitis syndrome (FPIES) は消化器症状のみを呈するアレルギー疾患であるが、有用なバイオマーカーは確立されていない。本研究では固形食物 FPIES の診断や予後予測に有用なバイオマーカーについて検討した。FPIES の食物経口負荷試験(OFC)陽性例は、対照群(感染性胃腸炎、敗血症)と比べて、急性期の TARC、MMP3、プロカルシトニン(PCT)が有意に高値だった。FPIES 診断のための ROC 解析では、TARC、MMP3、PCT の順に AUC 高値だった。一方、軽症例のみの解析では、MMP3 の方が TARC よりも AUC 高値だった。FPIES 診断予測においては急性期の TARC が最も有用だが、軽症例に限っては MMP3 の方が有用と考えられた。

FPIES 群の OFC 前後のサイトカイン評価では、IL-17A、TNF- $\alpha$ 、IL-8、IL-10 が有意に上昇したが、IL-5、IL-13、IFN- $\gamma$  は変化がなかった。TARC に最も相関が強かったのは TNF- $\alpha$  だった。

FPIES の初回 OFC 陽性時のバイオマーカーと寛解時期について検討したところ、高 TARC 群(TARC 1800pg/ml 以上)の寛解時期は低 TARC 群(TARC 1800pg/ml 未満)よりも有意に遅かった。

急性期の TARC や MMP3 は FPIES の診断や予後の予測に有用と考えられる。